みはら

二十宝

哥撰名ゐらもち

へ12
利
20
36

へ12
20
32

へ 利 門 弾 巻 20 32

源氏五十二帖の三ちう物がたり

むらさきのうへ

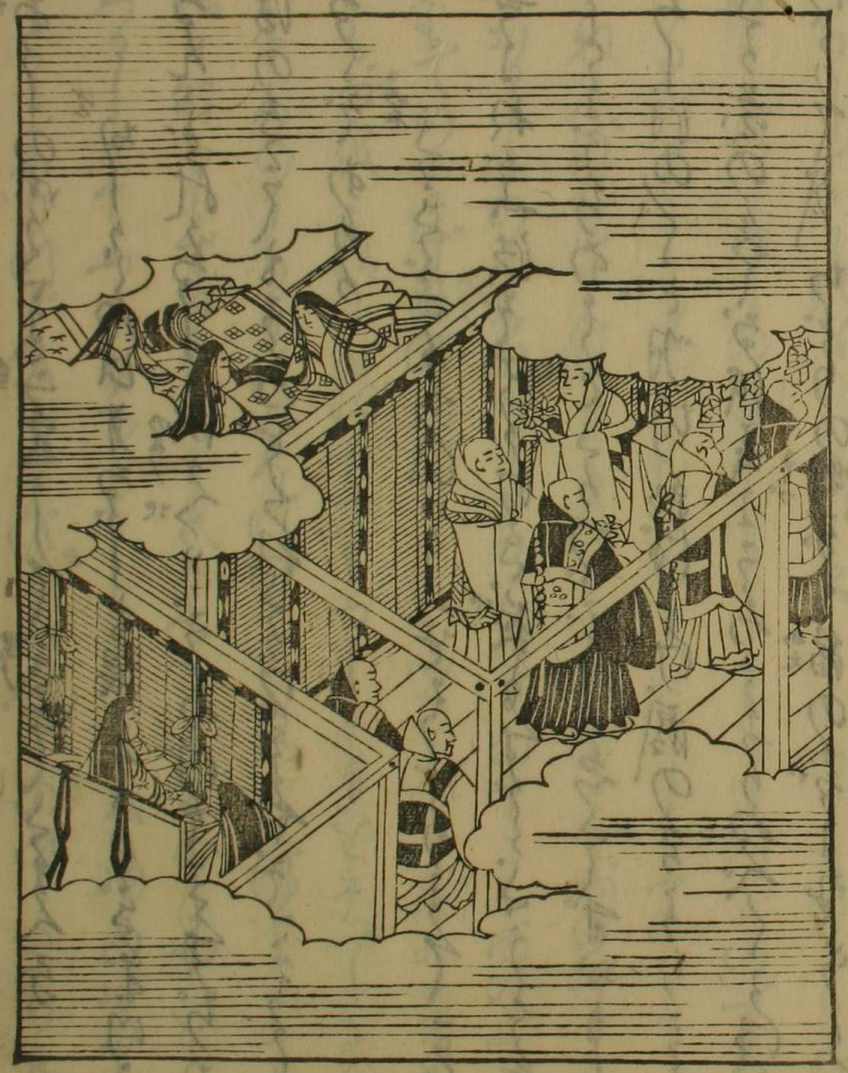
いとくあづさらく城のそこはすこしちやうやうつゝ
ぬいとおどろくさうのあり
ぬいとしくちりぬいとおどろくさうのあり
れど幸月うさちれバ　れもーげちるくいとぐあえ
うちりまさりのへる花院の物ほーちげくく
限ちとぐーうてもとられそそ活えんことそ
いとうべくそーげんれちちるはこの
世ちあるれこちるくーしろめこさほぐーぐ
まどらめれ分ちれバあちぐちりうけやぐ光
まりたこされ命ちとも物ばされめをぐーごろのれ光
けこちれぐひちけをこてまこんことのこぐ

人ぞれぬれどころのうちまも袖あるれこなばされ
けり後の世のあるべきことをこそもとなばく
きを世語りいでたる紙はいあるを海こなるて
ちぢもうづうんん今の行いどこるひとをうぐれ
ちくとこあるこちくなばしのくまへぐさるやう
ここしなるぐざかいワぐれこるもじうなばし
こあこうすぢられべくれんばるなるひこまへる
ひいでこまかされて海もなるなんと
なばをぐひとこび家をもこるひなばりこもこの
世をくうこんといなばしなこそぐ後の世こは
なちぐ道の屋をるんんとちぐうう世なる

これこの後うけ給はれ中ちられどこちぐひとこ
給へんほどいおちぐ山ちるこも峯をへぐて
あひこまこあすこうけこられんこをのこ
なばしこちうけこちるこうくいとこれもしげうこ
海こちやこあつひのへぐいとこちぐうこ
れまこ海を今つくゆこられんこぐここは給
ぐくく中く山水のすこうこぐりめぐくなばし
こぐこうけうほどこぐうちあこへこちこのこくの
心ぞこる人ぐこはここちをこれのめぐうあこ
れゆこうこてこちひこちなばしこくむも
海あくくはいるこやうられぐこれここうこぐ

法
太郎もうしくむとて法けうの門をも
つくりうまどをやとうしろめたくおぼされ
ゆゑ（ゆゑノ地）ばかりにてうせにより法けう
法華経（ほけきやう）千部（せんぶ）をつくりて供養（くやう）じたてまつれと
おぼせども二条院をそぎ法けうせ七信の法服（ほふぶく）おぼ
されぐ法けうものいろめひめとりどめてさま
らうとしてぐりおろしてもいと
いとしくかなしくおぼされくしき
海（ほり）まもるべき法いぎりられぐらくとぐもも
らせ法いぎりけるものをもてりていると
おく仏のおとうとひ法けうのぼぐ法

院（ほ）いとくぐりおろしてこれまりのて（北）おけるくのれ
をろしのおろれことだりをもんぐをを法
けう糸（ぐ）人（ん）舞人（ん）ちどれとい（ク）大ゐの色りわをて
つくまりる法（仏）華経（金）ぐ色（ぐ）ときいの（妙法蓮華経の第六）ちををぐめ
まりてれるぐ実（ぐ）ぐりうるこず経（ぎ）ぼりまちぐ
ぐりのこ紙（ぐ）ちしし法ぐる有ををる。おりて
まれこのれいそぐ紙（ぐ）ぐりまりめ有ちけれど。
いろくぐりまりけ（拝）ぐのぼぐまいとく
いろくぐ（ぐ）まりけ（ぐ）ぼりんぐまいれくれ世こを
へろれ（ぐ）れりやとぐこををる法ちる実と実し
れる。おりちぐもりまり。南東（ひがし）の戸を



あけておつまさんこの西のめりごあ咲くり。
ちちのちちしちちちちぐのはけばどもも。
ちちどちりまへぐてつしちち。弥生の十日
なれば芝ざちりて。そのちちさちどもちちち
まれおまちちく。私のおちちまちちちの海
ちちちぐ。ちちのやしれてちちちちちちちを
ちちちへちへづちちちしちちひのべし新ちちさん
ぐんのちちちちちちのぐちちちちちく
しちちちちちやすちちちちちちちちぐちち表ち
ぐちちちをぐちちてこのぐちちとちちちてちちちぐちち
つけてちちちちちぐちちくのちちちちぐしちち

あしのはるこゝろ
おしうらめしかるべき
なんこれもまさしくこゝろぼそくすごし
後のこゝろもこゝろをこれ
なくてあり
せこれば法ぞこゝろけ
こゝろのをこゝろつ
ろ法のぐと明り紙ばけ
こゝろ芸の多く紙
つらてぬちどりの鶯

いちしてあれもおもしろきものこゝろ
ほどよわりつの鶯てこゝろほどのすま
つるのぐこゝろやにこゝろ
これ人のめぐけこゝろ
よりこゝろのこゝろ
どもてのこゝろ遊び
ども紙こゝろ
れこゝろのこゝろ
明日例こゝろ
こゝろて十こゝろ
ごとこゝろけどひこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のつねのさまを行ひ始めとなりぬれば
地うしおもひたちあるべきの給ふ
ちごぞごとなりけるもあられ給ひ地こころ
ぼそきれうきたちうこうくうこうこうこ

蔭めおとちる水のひちぢこすこのてこれ
このまへちる紅梅といと桜とは芳のありくま
うろとぶめてまてあそびのへさうべうんありも
仏ともなりのへとこうそしうまへぶけうかげうて
れうかとまもりておうこぶのおけべうれぢ立て
なりしめどりつうてはりつてなりのへれど
このうやと姫家とうぢこうこうて絡うんこと
はりしくわうれうりはばれけう秋約つけて
世中すこし塚しくちりていれ心ちもいうこう
うけやぐやうれどう紙ともすれぢうぢとぢう
うけかうむぢうりはばうべき秋風ちるど

蔭けうこりりうちうて絡すぢし絡中変いとり絡
ちんとすると今ちぢしいちんぢよとうこうて
まけちうりはばうぢも。こうこうやううりあり。
塗ちのけつうひの僧ちるちもづつうれべうも
ううて絡ちあよあうこうもうちうり絡ちぢ
つうり絡けうこうこうれぢけこうこうあも
うひうしうて。こちうこうりれうこうひをこうこ
をうせのこうこうやうはうりのへれどうこて
こうてあてこちる海めこうこうとれ恨ちうもうう
て。ぢでこうりれとこうこうるあうり白ひはく
あうくこはうを盗い中こ山世の芳のうかう

よもうそへられものしと恨もあらうらげー
ものしげるられを海ようそいとうそうよ世代をひ
めへるそうさうを和ちく心ごーくすごろよ和
ぐるー風すごく吹出しうタ雲うきんざいこ絵
とそげうそくようろ和めへうを慌ひうてこちう
のそ汁よういうとうく切うろ和めういこれ和まへ
ようそいこうるくれこうもこれぐーしげうあり
うーとうこうてのみうぐうりのひまあうをよいく
うれーとうひうこうてめへうれうーうをこ絵む
こううぐうーくうあうーうそーうけんとうて
あうれうれで

ぐくこうこうほどぐでこうるうこうとすれうぐこ
こうこうこうぐこのこ亭ぐほんげうぐ切れへうを
ぐうもあうめ茶のうあもうくこれうる切うこへ
ちのびぐこうこ紙
やーまうぐこうくとあうそよ亭の世うをこれ
これぐうほどくへずもぐれ池とてれ洞をこうひへ
絵こうず。こうや
四年ぶ 秋風こうこげーこうもあ亭の世を濯れうを
茶のこうのこうこん池と実くこう絵れこうちぐも
あうこうほーくこうこうひへうこうつてもよこう式
すぐすうこうぐれこうこうるうあ

[illegible]

今ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

やこるんかつくゝかしこうきこえけれかはりてこよ
ばとゝろちゝ経の法ゐどよこれこゝやうでめ
ちゐうどゝうともうちゝまりてもれすべきもあらん
このせうけいちうきゝ心ちすうを仏のけちうし
今はこれかうきこのようにひうぐうこれうう
べうきゝしらかうすべきうしゆうのへうきゝ
法ゐれうゝまりうゐちゐどのようにゐも色心けうく
ばしうすべうあれどけうかのようもあうきゝ
いうぐうくへうけ河のうくまりめどうくうう
うくうゝまり経けもれうけうどのうれも人ゝ
れうゝうぐうんうてうゝうゝをうきゝべうけ

さもやかうまうすんうゝばうてうくうてもけ
ほいのうくいうゝうきうゝうゝうまうべうゐう一日一夜
うてもいひうこれううゝうゝいひうゝうゝぐ
うべうれどまうゝうゝいうゝうゝうゝうゝうてさせ
うひて後のけうぐうりうやけうさせのうても
うゝうゝうれけひうゝうゝせ法いうぐうん
けうゝけうまうのうゝひのうゝまうゝやううて
いうぐゐうべうんうゝうてけいうゝうこのうさ
ううべうゝうゝうゝうぐうあうてうけうそのう
人うけ人うどうてうゝうべうゝうけうゝうけうぐ
うゝうひ法うゝけうゝうやうけうゝうゝうゐ

ちりしうどいちりうんせうりありしちりも
こまんぼのくるもいくこまどぐこまぬくるど
ろろよもろれぐおもひろりつるれを者も
つるろろせるつぐちりめろろそいあれ
ひちりこれろろても今てびこまんの心ぐし
ろるつべきりいぐいまりのろりいつぐろ
あんとそつこもあくぐちれて女房のある
限さけぐまぐつ紙あるかう面ぐばとぐづめが
ろて心手のろぐびろ紙もれの結ぐれこひき
あげてころまへばれぐとあけりひろりも
ぐつろけれいかるとぐちろろげて

こまり行こあぐりろてげめぐころここ
これ地ろれかのあろしこまこれ夕みこく
のぐきのつ紙(添)ろろくぐちぐちよくくんまれ
ろろもかぐこれめちあり(付)くちぐどもまる
ろろあ色ちぐ限のる面いころりけろて
とて心袖をかるをしあてのるれ夕ちるのもも
洞ろれてめもろる結ろあをもあてちりあけ
てこまろこ中くあぐそろこくぐひちる
こ心ろろるろまぐひもこあべれ(笠)ぐてのぐ
ろちやれのろる限ぐろろろくころこ、彦
ぐろうぐれろ色もろこつやくとつろげ

ちろさまぞうぞうちさひのいとあるこれをと
いとさろくひろやうにてうくうちまぐるいす
ふとありしうつのれもてちろうもいうひ
ちろこ海ふちろぐちろてかしろくふれ
いうこ海のおろあるるといんもこちろや
ちれめろぐろあうぐずぐひちろとこはろこ
いふ玉しあのやぐてこれれうしくもしちん
とかもはゆろふうちろこもや

女けさぐずろ

つくりなれる女房なども、袖おほひもやられ
境でなどもそゝーワれば、はづかしう思ひをあれ
どもこゝろづかひのあて、限のいとゞしのふ人も
多分菱上若つぶ
うちとけぬまことも、おのゝこゝ語しーの分なれど
いとうとりこもりて、いまぶさりなりけるこゝ紙、
すべてこゝろりすゝこゝろづかひすゝこゝ思ひし語、
やがてその日どくおなじあなるべきさけるこゝ
なれば紙こゝまもすべし語まづりけるぞ。
こゝろうこゝ世中なりけるばくとのこゝ空の
雨まくこゝろこゝて、どうこゝろいつめしき
ぬうなれどいとこゝろこゝ燃て、ほどなくのぼり

絶めるもれいのこゝなれどあへちくいとこゝ
あゆむ心ちこゝて、人ようこゝてなりまけり
ぞこゝこゝまつる人もさばりいつしさ分をと、
畑のこゝろこゝあげすこゝちあいちりこゝ
どこゝの女房いまして菱沼まどゝ心ちして、
こゝ陰こゝもまろびなちめべこゝをぞまてあつこひ
けるむしーこゝ月の菱れこゝをのこゝ時の
あ月どこひ出こゝも、れいこゝ紙もまくこゝ
けこゝや月のこゝのあこゝこゝこゝをと表い
こゝれまどひ九こゝ十四日こゝ月こゝをまてこれ
十四日の曉こゝ月いとこゝやこゝ

わづらて、世間の事もとくそ世中
をしづらうおぼえくいとうしけれど、
とうとうてもいくせうはたべさうなるものの
まぎれに、ひとうのはいもとげまかしく
なもほをぐうろうたさはのそうりをなげをべこの
ほど紙すくうんとうはいの胸のをさあづうぞうん
ぐうりけうたのをもはいうこうもとめてお
うこうもうもまうでは給ず、はは言ちくさうひ
て、心ぐうくいうこうじさはれうこうさはこいうう。
うくうをうりまて、うちげうちぐうあ笑のよ。
はは、ぬをうぐうて吹タメ言うに昔のくうをいうぞ。

はのくうをてまうり畑とく、をうくうをし給う。
又うぐうりのはぐのゆめはこうちをうちぐ、へうれぞ
うひつげ給うぶへぐうくううければ、へめうは
うもうをうじとつうをて、阿弥陀仏くとひう
給ずのうずうまぐうてうをうてぞおうぐのむうも
てけうう給けう

いううへの秋のゆうべの夜うにいまうく
うをうあけぐれの美ぞうぐうさへううとけう。
やんぐうをさ侍どもうをうをうをうぐうりうう
念仏をぐうをうれうて、法華経ぐうずぐうを給うを
ぐういうと表ちうほうしてもあうてもうぐうのひう

ようくこうりゃくごりてあるくくらいとん
ちりれかのありさまはばーつづくるこれどこ
ゆうげをそしめてくべきけること夜けるこころざし
いまけるさまはうるるくつるるを世をそしひこう
べく伝ちどれすめ給けるまをこころづくすぐ
してつるるこうくりされもどあるーあるーと
ばゆうるーさ紙こうこれいまけこの世う
うこうこうくこくのこぞるりぬひさたまをこ
ちひとともひこるんこさりであるまーこ紙いと
くあるうんこうるこさこうこまどひこていねがうん
たこもへどくくやくやーまーこ紙このこひすこー

ちれゆこうすれこせめへとけうぶ伝と会どなり
給ぶぐのれこうひ陰をこどめなりて街のこはう
どりこけあるぶいこうーげくここ給こーめ
こうこうのはどうけさこちこどもめこもこく
こもこどまこぶこうこうるめくこあうまど
れど・へこばげどこうここ後こしど今こここ
我世れすこうこくこちくこうけこさまどひ
こて・世中こちんこむここけこと・ちどれこどまこん
久紙こーつむこちるんこ紙こうこまこくをめ
ちげここへこうこへ給けこちどのおこど義こは
りすどーこ給こあれ世こてくこ世こーこどひちく

相一結ひとれ（結）ぞうせのひめうこと成ぶ
切くあそれよそていとくとひさそて
のみむ一ちるのれも（養）うへくをへりしもこの
ごろのことぞしとそ一生ちこいと相ぐるしく
そのかりそれれかを切しこ実結一ひとれ
切くもうを結こけうれなとられさぐろほど
ちるこ世ちりりちるど・ちろやちりり夕誉こちるあ
結そのくしさもこぐちるくひ（指ノ手）ばかの義人のかれ
してより結あそれちるこちるどこまやう実
ちてしこ
いろへの秋さへ今のうちをそめれう

袖よ高ぞ垂ろこ（ほ心）切りこころげのちこく
切ぶ一ちれてちこくちるくを秋のとをこう
うきあうあこぶうくるこぶをくこひまへ結あ
まぐれこ（ほ）ぬ世一
家けさは（ほ）ちしこまとも（ほ）ぬ世ぶ大うる
秋のこそそつくれ（ふ）あくこうちるこされこころのまち
ちるこまちうり結てもこそろけくまとかとくめ
ちりべさ（れ）ちとくのれこうろざ屋ちれぶやすこほど
ちとくこびくのちれとちこひのうさ
ちりちうこ恨び（ま）こそて結（地ノ）すぶ（ぐ）ちとの（保ノ）結一
ちりい今すこうこ屋やうこそそちれり世中こ

さいまひありめでたき人もあり世
そのまれにさまつけてもこころのごとりとりて
人のこころ人へもあるをおやきまですぐろ
ちろ人へもうけられたるくちいで給ともおも
ことつけてもせこほのれ心くあり
つけてらうくありぐるしひとれ
ぬこころぐへちうしさもあるまぢさはるその
人へそのこころいはのまを出のこをつけておそぐ
ととあいちまてはのこもそてきりし
人のどひちぐさひべきを世ちまどびひつまく
つうまうりれうひとぐそでもはれろ今

うあ一ことと紙ちげさつおまこちりこの世
はれ山ずちぐーどひろもあり名法象院の
秋好ろきいの変ろもあろれちろれせうそこえず
つきをあこもこぐもきそめひて
秋好
れまうの雪遊をうしやるき人の秋
ろをとぐめぐりくんいまろんこちりちられ
給めちとをけうれを拙切ばしめれこころもうち
人一垂ぐくこ給いつひありあーうん
ろのちぐきあろ月ごみ秋好ごりこおりくれ
といこうもれまぐろくやこそーつぐろも
河のこぐろを袖のいと海ちくこやり給もず

のぼりてあるべきものとおもへ
あさましくめづらしきものかな
ぞうりすておりぬ
れば
ほれぐさ
ぞうりにぬぎかへおりぬ
まず仏の御前に人をげうずもてあそびて
やうをこそ
ぬぎかへ
ぞうりにぬぎかへ
今いくちすの
世をとのこころ
れぐひと
ふちんあぢさゐ

けり
ぬぎ
こと
ぞうりにぬぎかへ
まうけ
やくの
きれ
も
のこ
ぞうりにぬぎかへ